

佐賀森林管理署交渉（全国林野関連労働組合佐賀森林管理署分会）

議 事 要 旨

- 1 日 時 令和7年2月26日（水）17時20分から18時15分
- 2 場 所 佐賀森林管理署 会議室
- 3 出席者
- | | | |
|---------------------|-------|---------|
| 佐賀森林管理署 | 猪島 明久 | 署長 |
| 同 | 深田 隼人 | 次長 |
| 同 | 山口 昌幸 | 総括事務管理官 |
| 全国林野関連労働組合佐賀森林管理署分会 | 峯 良彦 | 委員長 |
| 同 | 三國 卓裕 | 副委員長 |
| 同 | 中島 純也 | 書記長 |
| 同 | 堤 広喜 | 執行委員 |

4 交渉概要

(1) 労働安全の確保について

(職員団体)

今年度の全国的な災害を踏まえ、当局としての安全意識や取組状況を確認したい。

(当 局)

職員の安全確保については、公務災害の未然防止、とりわけ重大災害の絶滅と災害件数の減少を目標に取り組んでいるところであり、引き続き安全勉強会などの場を通じ指導して参りたい。また、若い職員については、OJTや現場等も活用し実施して参りたい。

(職員団体)

心の健康づくりに対する当局の考えを伺う。

(当 局)

公務災害の防止、効率的な業務運営につながるだけでなく、職場の活性化や家庭生活においても特に重要なものであることから、管理者が中心となって、目配り、気配りを常に行い率先して明るい職場づくりに心掛けるとともに、早期の発見治療の観点から悩み等について相談しやすい環境づくりに努めて参りたい。

(2) 令和7年度今後の収穫量等の各種計画量について

(職員団体)

収穫量や生産量等が増加する中、職員の負担も増加することになるが、当局としてどのような対応を考えているのか伺う。

(当 局)

厳しい状況が続く中において、リーダーシップを発揮し、職員間の連携をしっかりと図り署一丸となって取り組んで参りたい。特に、資源の確保が最重要となることから、現状を把握するため資源量調査を計画的に実施したいと考えている。

(職員団体)

各種事業を行うには林道の修繕が不可欠であるが、予算の確保に向けての取組状況はどのようになっているのか。また、事業に使用予定のない林道についても、森林官が業務で安全に走行できるよう修繕を要求する。

(当 局)

林道の維持管理で使用できる予算は例年厳しいが、引き続き予算付けできるよう上局に要求して参りたい。

(職員団体)

事業を進めていくうえで必要な経費(旅費、超勤、非常勤予算など)の確保に向けての取組状況はどのようになっているのか。確実な予算確保を要求する。

(当 局)

現時点では確保できている状況であるが、状況をしっかりと把握し、不足する場合には予算確保に努めて参る。

(3) 要員の不足に伴う職員の負担軽減について

(職員団体)

現在空席となっている3ポストについては、署の中でも重要であり他業務を行いながら業務をしていくには負担が大きく対応できないのではないかと。

(当 局)

一部の職員へ負担が増加しないように取り組むとともに、当局のリーダーシップのもと、署一丸となって取り組んで参りたい。

(職員団体)

毎年、組織・定員の改正が行われているが、当署においても過去に級の調整が決定され、今回の人事異動によっては実施される見通しと思われるが、担当業務の見直し等行うべきではないかと。

(当 局)

級の調整は実施されるが、役職については現状のままとなっていることから、現時点では担

当業務の見直しについては考えていない。しかしながら、今後、経験が浅い職員が着任することも想定されることから、総括森林整備官などと連携をとり、職員が孤立することがないように取り組んで参りたい。

(4) その他

(職員団体)

鹿島・伊万里森林事務所については、築年数が相当経過している状況であるが、建替え等の計画について伺いたい。

(当 局)

建て替えについては現在も上申しており、引き続き上申して参る。

(職員団体)

一般会計に移行し課からグループとなり、合わせて要員も減少していく中で、グループ内のつながりをもって各種業務を進めていくことが重要である。当局としてはどのような認識でいるのか伺いたい。

(当 局)

情報を共有し連携することで、業務の効率化にも繋がるので打合わせは有効であると考えている。今後は、各グループの状況を見ながら必要に応じて打合せを促して参りたい。

以上